

# いっぺん 一遍 (1239~1289)



**鎌倉時代の僧。時宗の開祖。**伊予国風早郡河野郷(現、松山市)の豪族・河野通広の子で、宝巖寺の別院で生まれた。宝治2(1248)年、母の死に無常を感じ、また父の命もあって出家し、通広と縁のある筑前国(現、福岡県北西部)の僧・聖達の元へ行き、聖達の勧めで肥前国(現、佐賀県と長崎県)の僧・華台の弟子となった。父の死により一時還俗したがすぐに再度出家し、信濃国(現、長野県)の善光寺に参籠して二河白道図を写し、故郷に帰って浮穴郡の窪寺に庵室を結び、その絵を本尊として修業した。この山林修行の間に、信じる信じないにかかわらず南無阿弥陀仏の名号を唱えれば、出家と在俗、貴賤男女の区別なく往生できるという十一不二の法門を領解し、そして「南無阿弥陀仏決定往生六十万人」と書いた念仏札をくばる賦算を行った。また、踊り念仏を行い、貴賤を問わず、広く老若男女に支持をうけた。その念仏勧進の旅は、南は九州の大隅国(現、鹿児島県東半部)から、北は陸奥国江刺(現、岩手県)にまで及び、各地に念仏踊りとして伝えられている。

## 略歴

|             |   |
|-------------|---|
| 延応元(1239)年  | 伊予国道後の宝巖寺の別院で生まれる。  |
| 宝治2(1248)年  | 母に死別する。出家   |
| 建長3(1251)年  | 筑前国の聖達の元へ行き、聖達の勧めで肥前国の華台に入門する。  |
| 建長6(1254)年  | 聖達の元へ帰る。  |
| 弘長3(1263)年  | 父の死により帰郷し、仏門を離れ俗世に戻る。   |
| 文永8(1271)年  | このころ再出家する。  |
| 文永10(1273)年 | 信濃国の善光寺に参籠。二河白道図を写し、帰郷  |
| 弘安2(1279)年  | 浮穴郡七鳥(現、久万高原町)の岩屋寺に参籠   |
| 弘安6(1283)年  | 善光寺へ赴く。信濃国佐久郡小田切(現、長野県佐久市)で踊り念仏開始<br>鎌倉入りに失敗するが、片瀬(現、神奈川県藤沢市)の踊り念仏で多数の帰依者を得る。 |
| 正応2(1289)年  | 摂津国八部郡(現、兵庫県神戸市)「兵庫の島」の光明福寺(現、真光寺)の一院・観音堂において51歳で入滅。墓所は、真光寺                   |

(一遍上人像：宝巖寺旧蔵)

### 〈関連図書〉

- ・大橋俊雄『一遍』吉川弘文館 1983年
- ・大橋俊雄『人物叢書 一遍』吉川弘文館 1986年
- ・伊予史談会『伊予史談会双書 第14集 一遍聖絵・遊行日鑑』伊予史談会 1986年
- ・金井清光『一遍上人ものがたり』東京美術 1988年
- ・浅山圓祥『一遍と時衆』一遍会 1989年
- ・今井雅晴『一遍辞典』東京堂出版 1989年
- ・一遍会『一遍の跡をたずねて』一遍生誕750年没後700年記念事業会 1989年
- ・松尾剛次『鎌倉新仏教の誕生』講談社 1995年
- ・梅谷繁樹『捨聖・一遍上人』講談社 1995年
- ・長島尚道『絵で見る一遍上人伝』ありな書房 1996年
- ・『県民メモリアルホール 人物探訪第2集』愛媛県生涯学習センター 1998年
- ・大橋俊雄『一遍聖絵』岩波書店 2002年
- ・佐江衆一『わが屍は野に捨てよ 一遍遊行』新潮社 2002年

〈ゆかりのある場所〉…(P285, 87~88)

〈関連施設〉…愛媛県歴史文化博物館

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL: 0894-62-6222